



相関基礎科学系

系長 山崎 泰規

我々の住む世界（宇宙）の物質相は、階層構造を持っており、自然科学は、その階層に沿って、物理学、化学、生物学といった幾つかの基幹分野に分かれています。それぞれの基幹分野は、研究の深化に伴って、専門性が増し、多くの小分野に分化しました。場合によっては、自己目的化する傾向が生じることもありますが、一般には、それぞれの守備領域を拡大しつつ発展し、同時に、関連する応用的諸分野が分離し、独立してさらに発展しています。この目的別応用諸分野は、当然ながら、科学技術の進展や社会の要請に沿ってその目指すところが変わり、順次再編され、更新されます。一方、基幹分野は、上に述べましたように、本来自然の持つ階層構造を反映したものですから、一朝一夕にして構造が変わるようなものではなく、長い時間を掛けて醸成され、その酒精とも言ふべきものが各分野の成果として、また、文化として継承され、今に至っています。このように、醸成された各分野の思考法を身につけ自分のものにするは大変重要ですが、一方で、一つの文化にどっぷり浸かっていると、独善に陥る危険もあります。そのような場合、複数の基幹分野に対する感受性を養うことができますと、視野が格段に広がりさらに高いレベルからものごとを眺めることが出来るようになります。

ところで、応用諸分野の提供する科学技術が社会の根幹に与える影響は近年極めて大きく、従って、社会が、科学技術、のみならず、自然科学に寄せる期待も大変大きなものになっています。これはまた、基幹分野をも目的的に再編し、より効率的な発展を促せないかという考え方を生み、近年、自然科学研究を落ち着きのない、近視眼的なものにしています。そのような、めまぐるしく、狂騒的な風潮の中であって、次世代の発展に本質的、且つ、インパクトのある貢献ができる人材は、上に述べましたように複数の基幹分野を学び、多様な価値観を身につける機会を得ることによって育つのではないかと、私は考えています。1995年の発足以来、相関基礎科学系には、広い専門分野にわたる著名な先生方が多数お出でになります。その守備範囲は、物質の基本構造を探求する素粒子・原子核理論、多体系、凝縮系に特有の現象を扱う物性理論・統計力学、反粒子から凝縮系のエキゾチックな多体効果までを含む物性物理学、物質の多様性を極限まで探求する分子科学、さらに、自然科学研究の社会や歴史における役割を研究する科学技術基礎論に及びます。このように深い学識を持った多様な研究者が大変高い密度で存在することにより、本相関基礎科学系は世界の中でも大変ユニークな教育研究組織になっており、上で説明しました多様な価値観を身につけた次世代の教育が名実共に可能となっているといえます。意欲的な若い諸君の参加を期待しています。